

「リアル・レンタル彼氏」

— 1 稿 —

2026/06/14

山極 瞭一朗

〈人物表〉

佐伯	さえき	莉子	りこ	(27)	会社員
高橋	たかはし	誠	まこと	(35)	莉子の上司
馬場	ばば	美智	みち	(27)	バー店主・莉子の友人
神谷	かみや	悠真	ゆうま	(30)	新社長

ことわざ

「嘘から出たまこと」

1. 会社・エレベーター前（夕）

丸ぶち眼鏡をかけた地味系女性の佐伯莉子（27）、小太り上司の高橋誠（35）に腕を掴まれている。

莉子 「あ、あの……」

高橋 「あ、ごめん」

と、掴んだ手を咄嗟に離す。

気まずい沈黙。

高橋、取り繕うように話そうとするが、声がひっくり返って、

高橋 「ぼ、僕は……」

恥ずかしそうに、咳払い。

高橋 「ごめん」

莉子 「……ごめんなさい」

高橋 「え？」

莉子 「何て言うかその……付き合う気はないというか」

高橋 「上司だよ」

莉子 「はい？」

高橋 「あ、いや、パワハラとかじゃなくて、金、お金持ってるし、り、莉子ちゃんのこと幸せ——」

莉子、高橋の言葉を遮って、

莉子 「わ、私彼氏います」

高橋 「え……」

莉子 「だ、だから付き合えません」

高橋、ポカンとしている。

莉子、言ってしまったと口を震わせている。

通路を曲がった先、莉子たちを見ている人影がある。

2. バー・外観（夜）

路地裏にひっそりと佇む隠れ家的バー。

「Bar Bali」とアジアンリゾート風の看板。

3. バー・店内（昼）

薄暗い店内は、南国バリの雰囲気をおぼせるアジアンテイストのインテリアで統一されている。

それなりに繁盛しており、客たちは談笑中。

莉子、カウンター席。グラスを磨く店長の馬場美智
(27)と話している。

「I LOVE BALI」のTシャツを着た美智は素っ頓

狂な声で、

美智 「莉子に彼氏だど？」

客たちは一斉に美智を見る。

莉子、気まずそうに顔を伏せる。

美智、我に返り、

美智 「あ、ごめんなさいね。こっちの話なんで、みなさんご歓
談あれ〜」

客たちは談笑再開。

美智、ぐっと莉子に顔を近づけて、

美智 「彼氏いない歴〓年齢だろ」

莉子 「だから、嘘ついたんだよ」

美智 「いや待てよ。あるいはこれはチャンスととれる」

莉子 「ん？」

美智 「課長から告られたんでしょ。圧倒的チャンスだ」

莉子 「話聴いてたよね？」

美智 「撤回だ。今からでも遅くはない」

莉子 「待って」

美智は構わず続ける。

美智 「課長ならきつとそれなりの給料だ。独身を貫いているな
ら貯金だつてあるはず。莉子のこと大好きなら尽くして
くれる。これぞ理想の——」

莉子、遮って、大声で、

莉子 「タイプじゃないんだつて」

客たちは一斉に莉子を見る。

莉子、気恥ずかしそうにトーンを落として、

莉子 「小太りきもオヤジ。お金ないっていつも嘆いてる」

美智 「そっち系か」

莉子 「あまりに誘ってくるから嘘ついた」

美智 「ストーカー入っちゃってるのね」

莉子 「悪い人ではない。それはそう。だけど、証拠がほしいと」

美智 「彼氏の？」

莉子 「諦めがつかないって。そういうところほんと無理。無理な
んだけど……」

美智 「示さない限りまたしつこく誘われるってわけだ」

莉子 「そう、そうなんだよ」

美智、得意そうに口角を上げて、

美智 「いい方法がある」

莉子、首を傾げる。

4. 会社・大会議室（昼）

ホール風のつくり。壇上には「〇〇株式会社 新社
長就任式」の看板がでかでかと飾られている。
社員たちは続々と入って来て、席に着く。

5. 会社・廊下（昼）

大会議室の外。

莉子、高橋にスマホ画面を見せている。

画面、莉子とある男性のツーショット。仲睦まじ
そうに顔を寄せ合っている。

高橋 「今見せる？」

大会議室に社員たちが入っていく。

莉子、申し訳なさそうに、

莉子 「できるだけ早い方がいいかと思ひまして」

高橋 「いやまあ、早い方がいいというかさ、それはそうってわ
けでもないんだけど」

莉子 「すいません、でも彼氏、い——」

高橋、遮って、

高橋 「レンタルだよな？」

莉子 「え？」

高橋 「無理しなくていいよ。見え見えのバレバレ」

莉子 「ほんとの彼氏です」

高橋 「顔引っ付けてんのちょっと妬くね」

莉子、顔をヒクつかせる。

高橋 「まあでもいいや。今度さ、映画行こ。とりあえず就任式

終わったら、2人で話そっか」

と、屈託のない笑みを見せる。そして莉子を置いて
大会議室に入る。

取り残された莉子、スマホをぎゅっと握る。そして
大きなため息をつく。

悠真の声「幸せが逃げますよ」

莉子、ハツとして振り返る。

スラリとした体躯の爽やか好青年、神谷悠真（30）
が颯爽と歩いてくる。

莉子、思わずトロンとした目で悠真を見つめる。

悠真「大変そうですね」

莉子、ぶるっと首を左右に振り、我に返る。

莉子「あの……」

悠真「すいません、聴こえちゃって」

莉子「ごめんなさい、御見苦しいところを」

悠真「なりましようか？」

莉子「はい？」

悠真「彼氏、募集中ですよね？」

莉子「あ、いや……」

悠真、自身の発言に思わず笑って、

悠真「それじゃ僕が彼氏になりたいって意味になっちゃいます
ね。彼氏役、引き受けますよ」

莉子、わけがわからず、

莉子「し、失礼ですが、あなたは……？」

悠真、問いには答えず、ニヤリと笑みを浮かべる。

6. 会社・大会議室（昼）

数百人あまりの社員たちは一様に壇上に視線を向け
ている。

壇上、マイクを持つ悠真。

モニターには「新社長 神谷悠真」の文字と彼の経
歴がずらりと記されている。

悠真「本日より代表取締役社長に就任しました神谷悠真です」
隅の方に座る莉子、悠真に視線が釘付け。

悠真 「私が掲げる改革はズバリ、スクラップ・アンド・ビルド。慣れ親しんだやり方、慣習、そんなものは全部クソ喰らえです」

莉子、どこか心ここにあらずといった様子で話が耳に入っていない。

悠真 「執着など無価値。私と共に新たな価値を創出していきましよう」

社員たちは一斉に拍手をする。

莉子、開いた口がふさがらない。

7. 会社・社長室（夕）

高層ビルの最上階。

窓の外は東京の夕景が広がっている。

悠真、社長席に座り、景色を眺めている。

デスクに「社長 神谷悠真」と刻まれた黄金の三角

札がある。

ノック音。

悠真 「どうぞ」

莉子、恐る恐る入る。

悠真 「待ってましたよ」

莉子 「……社長、だったんですね」

悠真 「驚かせるつもりはなかったというのは嘘だね。昔からドツキリ仕掛けるのが好きでさ」

と、莉子をソファ席に誘導する。自身も移動し、向かい合わせに座る。

莉子 「じゃあ、あれもドツキリですか？」

悠真 「あれ？」

莉子 「私の彼氏役」

悠真、慌てて否定。

悠真 「まさか、ガチだよ」

莉子 「でも、社長、社長じゃないですか」

悠真 「だからいいんだよ。僕が相手だったら勝ち確でしょ」

莉子 「それは確かに……」

悠真 「でしょ」

莉子、疑うように、

莉子 「見返りは？」

悠真、思わず吹き出して、

莉子 「じゃあ……」

悠真 「困ってる人を助けるのが、俺の使命だから」

莉子 「社長……」

悠真 「俺と一緒に一泡吹かせてやろうぜ」

と、手を差し出す。

莉子、悠真を見つめる。

悠真、頷く。

莉子、彼の手をぎゅっと握る。

悠真 「契約成立だ」

莉子、ぎこちなく笑みを見せる。

（終わり）